



# ACTION PLAN & FINANCIAL 統合報告書 2018



## 学長メッセージ



2019年10月  
宇都宮大学長 石田朋靖

この度、従来の「FINANCIAL REPORT」に代え、教育・研究・社会連携などの活動成果と財務の状況を統合させた「**ACTION PLAN & FINANCIAL 統合報告書2018**」を作成いたしました。これは、両者を組み合わせてご報告することで、本学の実態を皆様により深くご理解いただくとする初めての試みです。

宇都宮大学では、第3期中期目標・中期計画のスタートにあたり、目指すべき4つのビジョン；①行動的知性の育成、②異分野を融合した柔軟な発想で新たな知の創造、③地域の強みを発揮するイノベーションの創出、④構成員一人ひとりの個性を活かした協働、を定め、その実現のために5つの重点戦略を設定し、これを「**アクションプラン2016**」として事業に取り組んでおります。

3年目となる2018年度は、Society5.0を見据え、多様な分野の専門知を融合して新たな価値を創出する人材の育成や研究を目的とした新大学院設置に取り組み、従来の4研究科を統合し、1研究科2専攻16学位プログラムから成る文理融合・分野融合の大学院「地域創生科学研究科」を本年4月に開設しました。工学部でも4学科制を1学科3コース制に再編・統合した新学部を本年度スタートさせ、深い専門と幅広い知識を持つ人材の育成機能の強化を図りました。教育学部は、群馬大学との共同で、両大学の強みを活かして質の高い教員養成を持続的に行うことを目的に、全国初となる「共同教育学部」の設置準備を行い、本年8月に設置が認可されました。このほか、教育の質の向上や学生支援の充実に向けた施策、グローバル化に向けた取組、高大連携やリカレント教育の推進など、数多くの取組を進めて参りました。また、地域科学技術実証拠点整備事業に採択された、ロボティクス・工農技術研究所が本格稼働し、産学官連携の実質化により数多くの研究が進展しています。若手教員の世界規模の研究成果も現れています。

宇都宮大学は、このように様々な施策を実行し、アクションプランの実現に向けて着実に歩みを進めております。

しかし、こうした取組を進める中、予算の面においては、機能強化の方向性や毎年の評価結果に応じて運営費交付金の配分額が変わるといった仕組みが導入されるなど、国立大学は、これまで以上に厳しい競争的環境に置かれています。本学では、安定的な大学運営を目指して平成29年度に「宇都宮大学3C基金」を創設し、寄附による自己財源の確保・財務基盤の充実を図るなどの努力を始めております。

ステークホルダーの皆様には、ぜひ本学の状況をご理解いただき、忌憚のないご意見とご助言をお聞かせいただければ幸いです。

宇都宮大学は、「アクションプラン2016」に掲げた4つのビジョン、5つの重点戦略の実現に向け、宇大スピリット「3C精神」（Challenge=主体的に挑戦し、Change=自らを変え、Contribution=広く社会に貢献する）の下で、さまざまな改革に挑戦して参ります。

今後ともご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

# ACTION PLAN & FINANCIAL 統合報告書 2018

## CONTENTS

### 学長メッセージ

アクションプラン2016 構想の概要……………1

戦略別進捗度と特徴的な取組・成果……………2

教育に関する成果①……………3-4  
組織の新設・再編と財務状況

教育に関する成果②……………5  
基金のリニューアルと受入額の推移

教育に関する成果③……………6

研究に関する成果……………7-9  
研究推進と財務状況  
外部資金受入額の構成と推移

社会貢献・地域連携に関する成果……………10

組織運営・ガバナンスに関する成果……………11-12  
資産の構成  
資産の財務上の特徴、課題  
施設、設備のマネジメント

学長のリーダーシップによる戦略的な  
資源配分……………13

### 財務情報の要約

貸借対照表 (BS) ……………14

損益計算書 (PL) ……………14

キャッシュ・フロー計算書 (CF) ……………15

その他の財務諸表……………15

宇都宮大学概要……………16



# アクションプラン2016 構想の概要

## 私たちが目指すもの＝4つのVision

- Vision 1 行動する知性を備えた人材を養成します
- Vision 2 異分野を融合した柔軟な発想で新たな知を創造します
- Vision 3 地域の強みを発揮するイノベーションを創出します
- Vision 4 構成員一人ひとりの個性を活かした協働を進めます

Visionを達成するため、第3期中期目標・中期計画期間（平成28～33年）では次の5つの重点戦略のもとで施策を進めます

### 戦略① 地域の知の拠点形成

新学部「地域デザイン科学部」（H28年度設置）を核として、地域の強み（地域資源・地域特性）を活かしたまちづくりを支える専門職業人の育成や地域との共創機能を強化することによって、地域の地の拠点を形成する。

**取組 A** 地域課題解決機能を強化し地域の知の拠点形成のために、**新学部「地域デザイン科学部」**を設置

**取組 B** 地域開発に貢献する高度専門職業人を育成するために、**新大学院組織**を設置

**取組 C** 地域との共創機能やシンクタンク機能を強化するために、「**地域連携戦略機構**」を設置：**COCの更なる発展**

### 戦略② 地域人材育成の基盤強化

行動的知性と実践的専門性を兼ね備え、3C精神（Challenge Change Contribution）を持って、地域において新たな価値の創造を支えることができる人材を育成する。

**取組 D** アクティブ・ラーニングと体系的学修評価による教育の質向上サイクルの確立のために、「**大学教育推進機構**」を設置：**APの更なる発展**

**取組 E** 人づくりの基盤：**教職大学院**を核とする学校教育の質向上への貢献

**取組 F** 地域イノベーションを支える専門職業人の育成

### 戦略③ グローカルリーダーの育成

地域のグローバル化や地域からのグローバル化に対応する人材育成とともに、高大連携の拡充により次世代の地域リーダーを育成する。

**取組 G** グローバルな視点を持って地域に貢献するグローバルリーダーの育成強化（**大学英語教育学会賞受賞プログラム**や「**トビタテ！留学JAPAN：地域人材コース**」等の活用など）

**取組 H** 次代の地域リーダーの育成：**グローバルサイエンスキャンパス**等高大連携事業推進

### 戦略④ 地域イノベーションの創出

－強みと特長を有する研究の戦略推進－

地域志向研究を活性化して、新産業の創出や既存産業の高付加価値化に結びつく地域イノベーションを創出する。

**取組 I** フードサイエンス、ものづくりにおける融合的イノベーションの創出：**地域イノベーション戦略推進地域支援プログラム**を核とする農工融合分野研究プロジェクトの推進

**取組 J** 世界に通じる先端的研究の開発・推進：**光工学研究**の国際ネットワーク形成（H27年度、**先端光工学専攻設置**）、国際的優位性を創出する**フードサイエンス**

### 戦略⑤ ガバナンス改革

学長のリーダーシップの発揮と教職員の意識改革に資するガバナンス改革、ならびに多様で優秀な人材の確保・活用による教育研究の活性化に資する人事・給与システム改革を行う。

**取組 K** 教員組織の一元化（**教教分離**）や大学運営を的確にマネジメントする「**大学教育推進機構**」の設置などのガバナンス機能の強化

**取組 L** 年俸制の拡大、クロスアポイントメント制度の導入、業績給の設定、女性教員採用特別制度などによる多様な人材の確保

# 戦略別進捗度と特徴的な取組・成果

施策		進捗度	20%	40%	60%	80%	100%
戦略① 地域の知 の拠点形 成	新学部「地域デザイン科学部」でくまびりのプロを養成		新学部開設、地域デザインセンター設置	地域系科目の充実		「地域プロジェクト演習」開講	
	地域との共創機能強化のために「地域連携戦略機構」を設置		機構組織の検討	地域創生推進機構設置 (H30.4)		地域連携の充実・強化	
	地域活性化の中核的拠点の高度化を目指して「新大学院組織」を設置		構想検討・案決定	設置計画書提出		新大学院「地域創生科学研究科」開設 (H31.4)	
	地域における生涯学習拠点としての機能強化		宇大未来塾設立決定	宇大未来塾開講・一期生輩出	UUカレッジ開講決定		UUカレッジ開講

施策		進捗度	20%	40%	60%	80%	100%
戦略② 地域人材 育成の基 盤強化	アクティブ・ラーニングと体系的学修評価による学びの質の深化		AL拡充、学修到達度可視化システム整備	大学教育推進機構設置 (H30.4)・AL推進		教学マネジメントガイドラインの策定	
	地域イノベーションを支える専門職業人の育成		実務家による講義の拡大	地元インターンシップの推進		地域に関する実践的科目拡充	
	学生の多様なニーズへの対応と支援体制の充実		多様な支援策の推進	就職支援・経済支援・課外活動支援の推進・拡充			
	教職大学院を核とした学校教育の質の向上への貢献		教職大学院のノウハウを県の教員研修に適用	学校ボランティアの推進		共同教育学部設置決定	

施策		進捗度	20%	40%	60%	80%	100%
戦略③ グローバル リーダーの 育成	地域に貢献するグローバルリーダーの育成強化		海外留学拡大	外国人留学生受入拡大・国際学部改組		SDGsへの取組	
	次代を担う地域リーダーの育成		高大連携の推進	GSC事業による成果・中大連携事業に発展		高大連携の発展	

施策		進捗度	20%	40%	60%	80%	100%
戦略④ 地域イノ ベーション の創出	農・工・融合的イノベーションの創出		学内資源の戦略的配分連携プロジェクト推進	ロボティクス・工農技術研究所 (REAL) の整備		REALの本格稼働	
	世界に通じる先端的な研究開発推進と研究支援体制の強化		多様な研究支援策推進	研究成果への結実		研究助成拡充 新たな資金調達	

施策		進捗度	20%	40%	60%	80%	100%
戦略⑤ ガバナンス 改革	ガバナンス機能の強化と組織運営改善の迅速かつ戦略的実施		教数分離開始、学長補佐体制・監事機能強化	新内部質保証システムによる部局評価		戦略企画本部の設置	
	多様で優秀な人材の確保と開かれた研究環境の創出		女性・若手教員増加 年俸制拡大	宇大版テニュアトラック制度 導入・新たな教員評価制度構築		処遇反映型 評価制度構築	

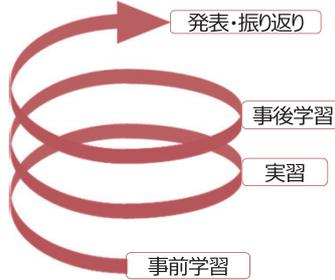
# 教育に関する成果①：組織の新設・再編

## 地域デザイン科学部の完成に向けて

平成28年度に開設した本学5つめの学部「地域デザイン科学部」は、4年目の令和元年度が完成年度となり第1期生が卒業を迎えます。3年目となった平成30年度は、本学部のコア科目である「地域プロジェクト演習」を開講しました。

主な取組テーマ（協力自治体）

- ◇今市エリア（旧日光市）における「まちの縁側」の推進（日光市）  
➡ <最優秀賞・学生賞>
- ◇人口減少社会を見据えた農村地域などのコミュニティ維持形成（宇都宮市）  
➡ <地域賞>
- ◇「ヨシ」のあるまちづくり（栃木市）  
➡ <総合成績 1位>
- ◇遊休不動産とアーバンデザイン（那須烏山市）  
➡ <総合成績 2位>
- ◇商店会の良さ再発見と魅力づくり（栃木市）  
➡ <総合成績 3位>
- ◇あしかが映像まつり（足利市）
- ◇見つけよう、本場結城紬の魅力（小山市）



H31.2.19下野新聞



現地調査



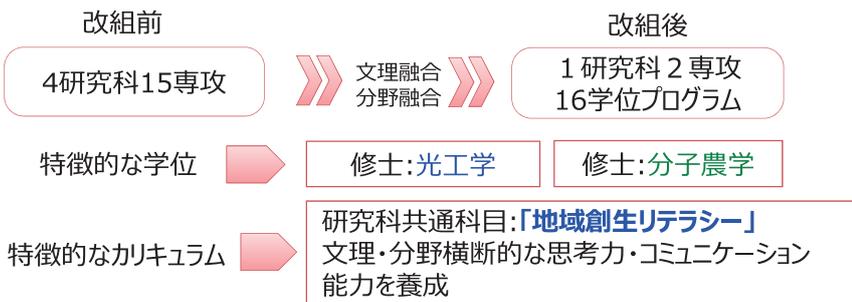
プレゼンテーションの予行



成果発表（外部に公開）

## 文理融合・分野融合による地域課題の創造的解決:新大学院「地域創生科学研究科」の開設

従来の4つの研究科（修士課程、博士前期課程）を発展的に総合し、文理融合・分野融合の新たな大学院研究科「地域創生科学研究科（修士課程）」を開設しました。 H31.4 開設 当初計画を1年前倒し



「地域創生リテラシー」必修科目  
**「地域創生のための社会デザイン&イノベーション」**  
 講義や討論する課題の題材をSDGsの17の開発目標を念頭に設定

※SDGs:2015年に国連が定めた持続可能な開発目標



H30.9.7下野新聞

地域創生リテラシー科目  
「現代社会を見通す:生命と感性の科学」(合宿授業)

## 一つを極めつつ幅広い知識を持つ人材の育成:工学部の改組 (H31.4)

工学部では、これまでの4学科を「基盤工学科」の1学科とする改組を行いました。この改組では、1年次を「基礎教育ターム」として基礎知識を幅広く学び、2年次以降を「専門教育ターム」として、「物質環境化学コース」「機械システム工学コース」「情報電子オプティクスコース」の3コースに分かれて専門知識を極めます。また、これにより全コース一括入試の実施などの入試改革を行いました。



## 宇都宮大学と群馬大学の強みを活かしたより高度な教員養成:全国初の「共同教育学部」設置へ

宇都宮大学と群馬大学は、2大学共同で教員養成を行う「共同教育学部」の設置に向けて協議を重ね、本年4月に設置計画書を提出して設置審査を受け8月に認可されました。共同で教員養成を行うこのような形態の学部は全国初となり、少子化により教員需要が減少する中で、これからの教員養成の在り方を変える先駆的な取組となっています。

### 各大学の強みを活かしたシナジー効果

- ◇互いの得意分野を組み合わせたカリキュラム  
宇大:グローバル教育、ESD など  
群大:ICT/プログラミング教育 など
- ◇グローバル社会、Society5.0、SDGsへの対応
- ◇特別支援学校教諭の養成領域の拡大

2020年4月 全国初

宇都宮大学 × 群馬大学

共同教育学部へ  
変わります

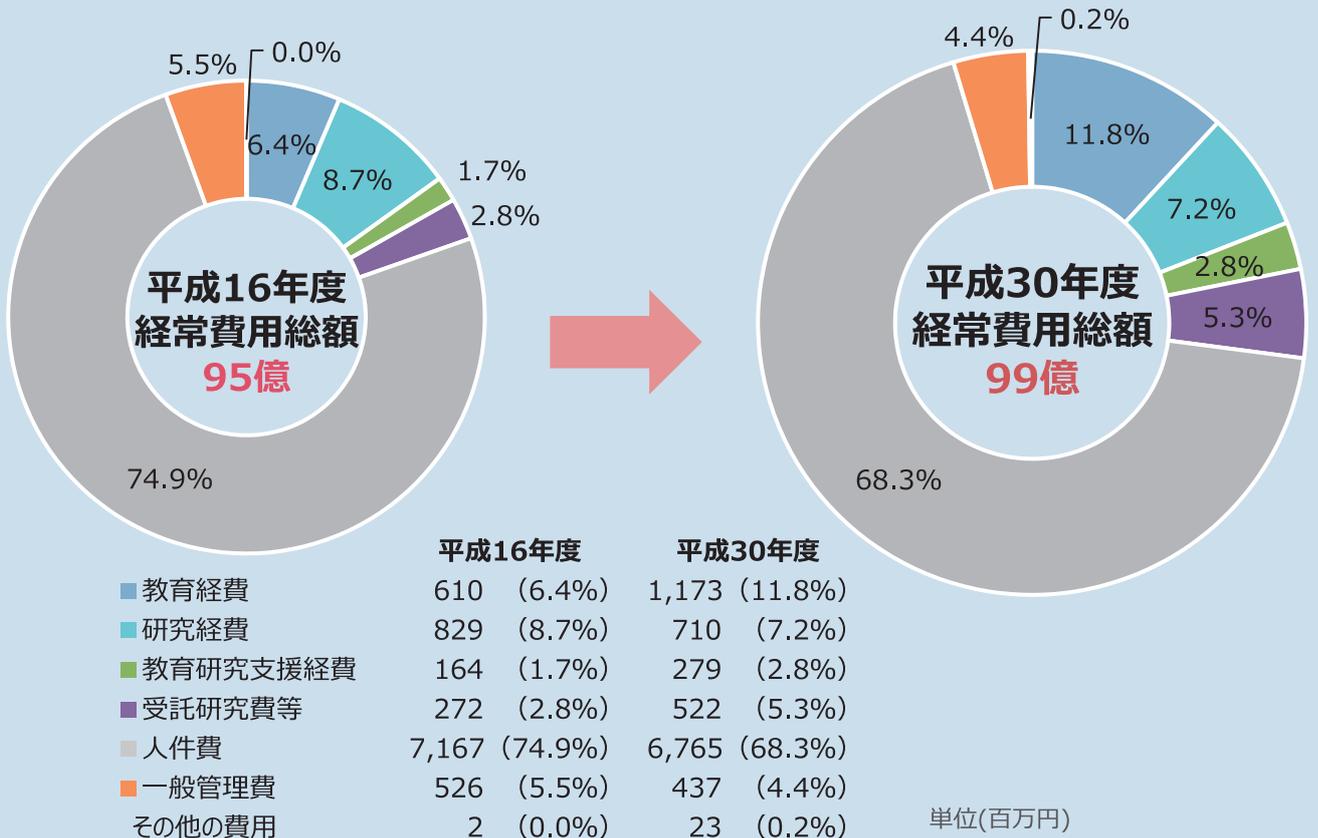


R1.9.6 下野新聞

## ○組織の新設・再編と財務状況

国からの運営費交付金が削減されるなかで、教職員数を可能な限り抑制して人件費を削減し、その分を教育経費に充当して教育の質を維持してきました。その結果、法人化当初の平成16年度と比較して平成30年度決算では教育経費は大きな伸びを見せています。

ここで紹介した組織の新設・再編は、時代の流れと社会のニーズに対応した質の高い教育を行える環境を整え、次世代を担う優秀な学生を社会に輩出するために行ったものです。コンパクトながらも多くの教育研究分野を有する総合大学としての強みを活かし、従来の枠組みを超えて“融合”、“連携”をキーワードとして組織を再編することが、限られた資源の中で最大限の効果を上げる方策と考え、精力的に組織改革を行ってきました。その取組は全国から注目されています。



## 教育に関する成果②：教育の質の向上、学生支援の充実

### 実践力を養うための授業の拡充

学生がより実践的な素養を身につけられるように、アクティブ・ラーニング科目、実務家による授業、地域に関連する実践的科目の拡充に努めました。また、教員がアクティブ・ラーニング指導法のスキルをアップするための研修プログラムの受講を推奨しました。

#### アクティブ・ラーニングの推進

学生のアクティブ・ラーニング科目(基盤教育科目)受講率：H28:90% ⇨ H29:92% ⇨ H30:100% (専門教育科目も含めると99%)

教員のアクティブ・ラーニングに関する研修プログラム受講率：H28:68% ⇨ H29:87% ⇨ H30:89% (過去に1度でも受講した率98%)

#### 実務家による講義の拡充

H28:157科目 ⇨ H29:175科目 ⇨ H30:219科目

#### 地域に関連する実践的科目の充実

H28:13科目 ⇨ H29:43科目 ⇨ H30:63科目

### 3C基金による新たな学生支援事業

「宇都宮大学3C基金」における篤志家からの寄附金を原資として、学生に対する経済的支援を行うため、本学独自の特徴的な奨学金制度を創設しました。

#### 飯村チャレンジ奨学金 (H29～)

◇H30採用枠拡大(大学院生も対象に)  
経済的に苦しいチャレンジ精神を持つ学生を支援  
H30:15名、総額5,400千円支給

#### 入学応援奨学金 (H29～)

栃木県内の高校に在籍する生徒に対し入学後に給付する予約型奨学金  
H30:10名、総額3,000千円支給

#### 関スポーツ奨学金 (H30新設)

課外活動団体で積極的にスポーツ活動に参加している学生を支援  
H30:9名、総額900千円支給

#### 従前から継続実施している奨学金制度

#### 増山奨学金 (H22～)

学業成績が優秀で経済的に苦しい外国人留学生および学業成績が優秀で海外留学を希望する日本人大学院生を支援  
H30:10名、総額1,000千円支給

#### 齋藤裕奨学金 (H25～)

将来世界を舞台に活躍し日本の科学技術の発展を担える優秀な日本人大学院生を支援  
H30:4名、総額1,800千円支給

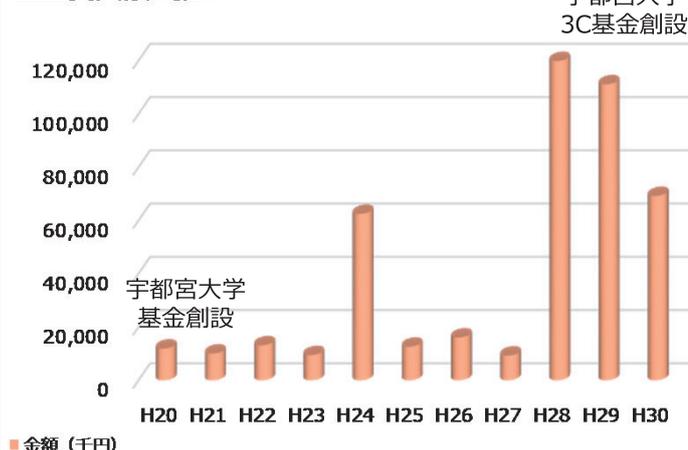
## ○基金のリニューアルと受入額の推移

学生を育てるのはみんなの力で

学生は、教職員のみでなく保護者やOBの皆様、地域の皆様など大学に係わる全ての皆様によって支えられ育つものであると考えています。

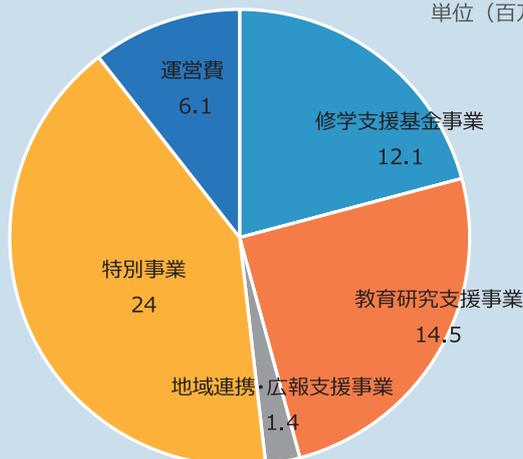
宇都宮大学は「最も学生を大切に育てる大学でありたい」をコンセプトの一つとして学生支援活動を充実するために、平成20年度に創設した「宇都宮大学基金」をリニューアルして新たに「宇都宮大学3C基金」を創設しました。皆様方からいただいた寄附金は、上記の奨学金事業を始めとして様々な支援活動に役立てられています。

#### 基金受入額の推移



#### 平成30年度の主な支出額

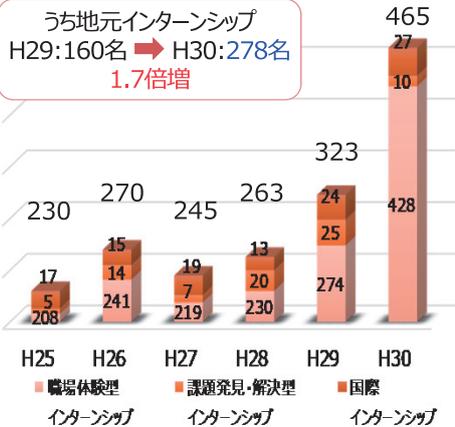
単位 (百万円)



## 就職支援の充実と高い就職率の維持

学生支援でもう一つ重要なのは就職支援です。社会から評価される優秀な学生を育てるために、また多くの学生が自分の希望に合った進路に進めるように、きめ細かい支援を行っています。

### インターンシップ参加者の増大



### 就職支援の充実

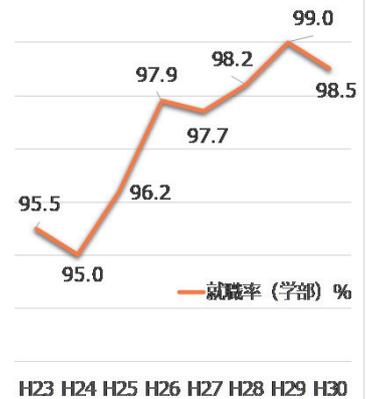
キャリアアドバイザー（キャリアコンサルタント有資格者）、ジョブサポーターによる進路相談(毎日)

- 就職対策講座等の開催
- ◇就職対策講座・セミナー:24回
  - ◇就職ガイダンス:10回
  - ◇適正テスト・模擬テスト:7回
  - ◇合同企業等説明会:4回
  - ◇各種説明会・報告会:7回
  - ◇企業見学・就活ツアー:1回
- 延べ53回 (H29:44回)

学生相互による支援

- ◇宇大就職応援団:JUST
- ◇就活サポートチーム:WILL

### 高い就職率を維持



### 人事が見る大学イメージランキング 全国 6位 (関東甲信越1位)

日本経済新聞社が  
2019年2月~3月に  
全上場企業・有力  
企業を対象に調査  
(回答数815社)  
(R1.6.5日経新聞で発表)

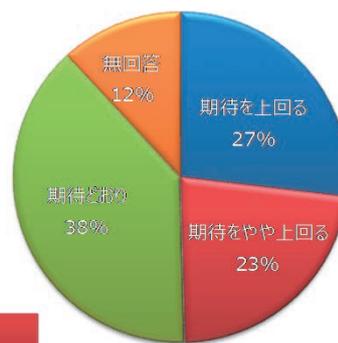
#### 調査項目

- ◇学生のイメージ
- ◇大学の取組のイメージ

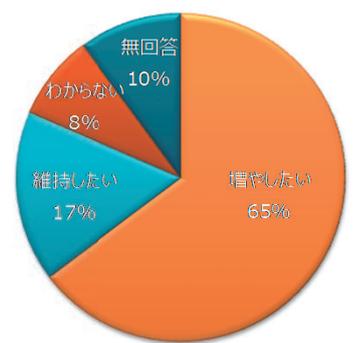
順位	大学名	得点
1	九州大学	33.41
2	京都大学	32.78
3	大阪大学	32.16
4	東北大学	32.15
5	広島大学	32.06
6	宇都宮大学	31.88
7	横浜国立大学	31.87
8	筑波大学	31.63
8	東京海洋大学	31.63

### 就職先企業（227社）アンケート実施結果（H30.12）

#### 採用した学生の評価



#### 今後採用を増やしたいか



## 教育に関する成果③：グローバル化

### 海外からの認知度の向上と留学先の拡大

海外から優秀な留学生を受け入れるためには、宇都宮大学が如何に魅力的な大学であるかを知ってもらうことが重要です。そのために、海外で広く認知されているTHE（Times Higher Education）世界大学ランキングにエントリーしランクインしています。

また、日本人学生が海外に留学し易い環境を整えるため、毎年新たな大学と国際交流協定を締結して、留学先の選択肢を拡大しています。

### THE（Times Higher Education）世界大学ランキング

ランキング年度	世界ランク	日本国内順位
ランキング2017	981校中 801+位	69校中 39位タイ
ランキング2018	1103校中 1001+位	89校中 72位タイ
ランキング2019	1258校中 1001+位	103校中 52位タイ

### 国際交流協定校の拡大

- ◇部局間交流協定:H30新規6校
- ・タマサート大学(タイ:国際学部)
- ・ベトナム国家農業大学(ベトナム:農学部) 他

H30末現在  
総数80校

#### ◇地域別

北米:10校、南米:2校、オセアニア:1校、アジア:53校  
中東:2校、欧州:9校、アフリカ:2校、他:1校 計80校

### THEインパクトランキング2019\*にランクイン

- ◇全世界で466大学がランクイン。
- その中で本学は101~200位にランキング
- ◇日本の大学では41大学がランクイン。
- その中で本学は同率4位にランキング



ランキングロゴマーク

\*THE University Impact Rankings=イギリス TES Global 社が行うTHE (Times Higher Education) 世界大学ランキングで2019年に新たに設けられたカテゴリー:SDGsの各目標に対する取組が評価される

順位	区分		教育機関名
	国内	世界	
1	48	国	京都大学
2	52	国	東京大学
3	91	私	慶応大学
4	101-	国	宇都宮大学
4	101-	国	大阪大学
4	101-	国	金沢大学
4	101-		他7大学

# 研究に関する成果

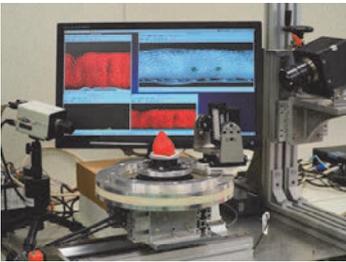
## 地域イノベーションの創出と世界的な研究成果

宇都宮大学のキャッチフレーズは「豊かな発想を地域に、新たな知を世界へ」です。この言葉どおり、本学の研究成果は地域イノベーションの創出に大きく貢献しており、既に実用化に向けた成果も現れています。さらに、本学の強みである分子農学や光工学の分野では、世界的な研究成果を世に送り出しています。

### ロボティクス・工農技術研究所の本格稼働 (Robotics, Engineering and Agriculture-technology Laboratory: REAL)

ロボティクス・工農技術研究所(通称:REAL)は、国からの補助金など総額8.3億円を投じて整備された地域イノベーションの創出拠点です。最先端の施設、設備と産学官連携の実質化により、実用化に向けた数多くの研究が進展しています。

本学発のイノベーションに地域から大きな期待



人視感覚色彩抽出法によるイチゴの熟度判定

自走式イチゴ収穫ロボットの移動技術を活用して製品化し販売されている「農作物搬送ロボット」

### 若手教員による世界規模の革新的研究成果

世界初

◇児玉豊准教授の研究グループによる「植物の細胞診断法」に関する研究成果が、国際園芸科学誌



屋内施設で栽培される多くの作物の葉の大きさや厚さが制御できる

*Scientia Horticulturae* に掲載

また、昨年世界で初めて解明した「葉緑体運動に関わる温度感知と分子制御機構の研究」で文部科学大臣表彰若手研究者賞受賞

### クラウドファンディングによる研究資金の調達<本学初>

◇分野融合研究により進めてきた「きのこ個性化プロジェクト」で本学初のクラウドファンディングにより資金を調達  
目標額100万円  
達成額185万円



100品種にも及ぶシタケの品種や栽培法による味、香り、食感の違いを数値化して個性を明確化

ブランド化の実現

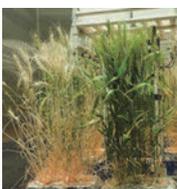
### 国際的に著名な学術誌への掲載論文数の推移



世界初

世界規模の食糧難解消に大きな期待

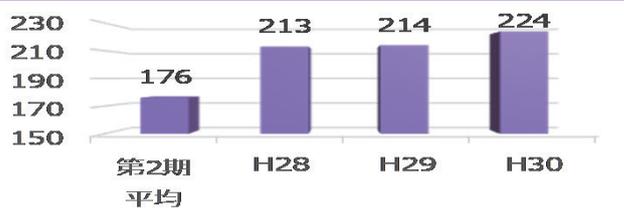
◇岡本昌憲助教らの研究チームが干ばつに強く、水を節約して育つコムギの開発に成功  
本研究成果は国際学術雑誌 *Nature Plants* のオンライン版に公開された



少ない水でも枯れないコムギ(右)

H31.2.11下野新聞

### 連携プロジェクト件数の推移



## ○研究推進と財務状況

研究の成果を上げるためには研究費の確保が必要不可欠です。国からの運営費交付金や学生・保護者の皆様からいただく学生納付金のほとんどは、人件費と教育経費に充てられ、そこから研究費を捻出する余地はほとんどありません。従って研究費は、国からの補助金や企業等からの受託研究費、共同研究費、寄附金などの外部資金で賄う以外にありません。

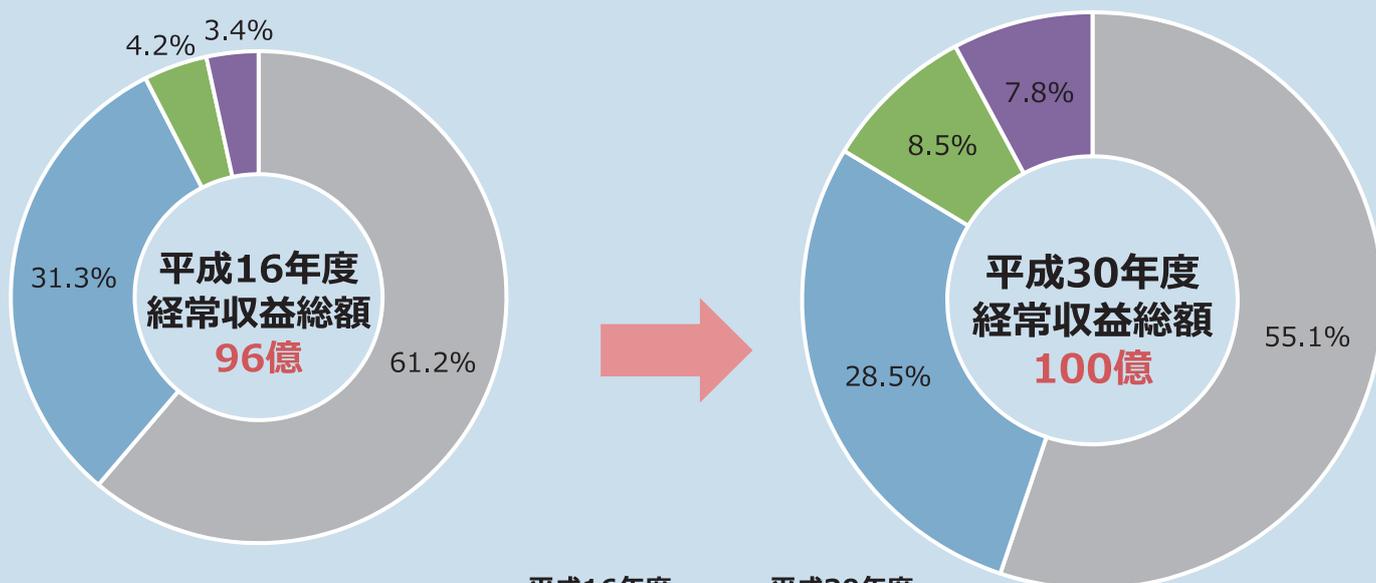
外部資金を確保する方策の一つとしては、本学で行われている研究と将来展望（シーズ）の発信と、企業等とのマッチング強化によるプロジェクト（共同研究、受託研究等）の推進があげられます。その一環として、10年以上前から毎年「宇都宮大学企業交流会」を学外の催事場で開催しており、令和元年度はこれを発展させた「宇都宮大学コラボレーション・フェア」として開催しました。また、URA（ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター）を複数名採用してマッチングの強化を進めています。

この結果、企業等との連携プロジェクト件数は年々増加（前ページ参照）しており、令和元年度も昨年度を凌ぐペースで伸びています。



コラボレーション・フェアの様子

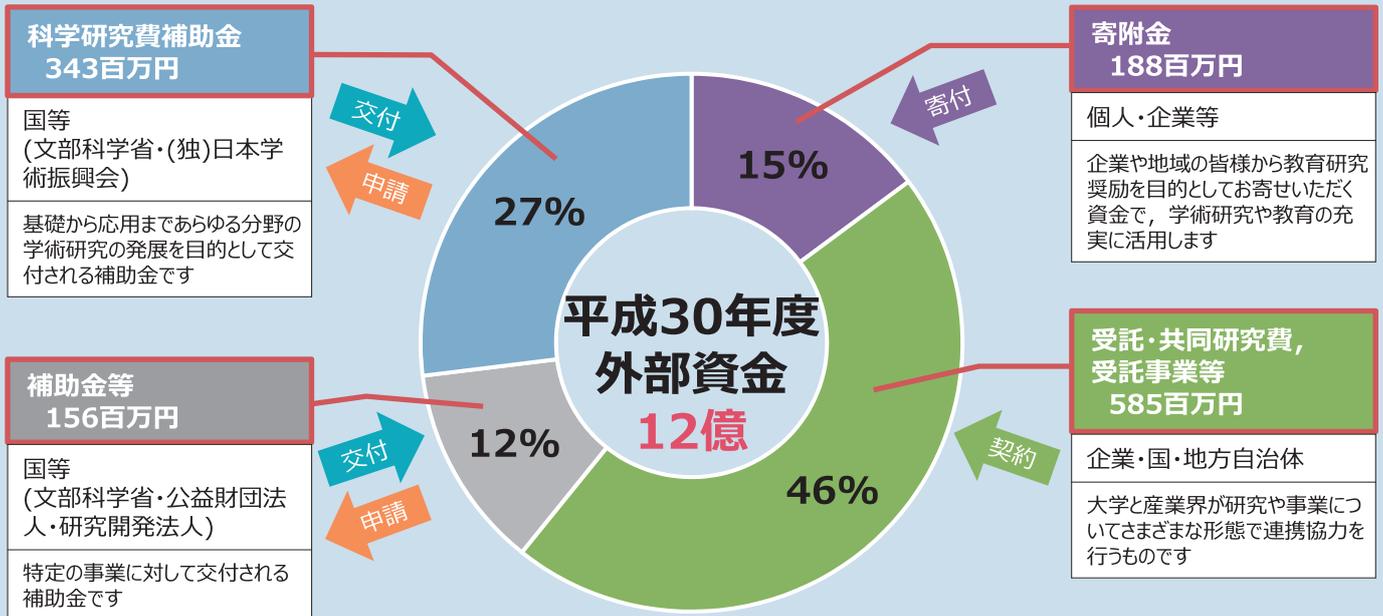
本学の経常収益の構成は次のとおりとなっており、法人化当初の平成16年度と比較して平成30年度では、運営費交付金収益、学生納付金収益の割合が減る一方で、外部資金収益は倍増しています。なお、外部資金受入額の構成と推移は次ページをご覧ください。



	平成16年度	平成30年度
■ 運営費交付金収益	5,904 (61.2%)	5,500 (55.1%)
■ 学生納付金収益	3,017 (31.3%)	2,846 (28.5%)
■ 外部資金収益	401 (4.2%)	847 (8.5%)
■ その他の収益	327 (3.4%)	781 (7.8%)

単位(百万円)

## ○外部資金受入額の構成



## ○外部資金受入額の推移



※金額は財務諸表上の受入額になります。  
 間接経費等を含んでいます。  
 教員当外部資金受入額 = 受入総額 / 常勤教員数 (常勤教員人数は各年度5月1日現在の人数)

# 社会貢献・地域連携に関する成果

## 高校生から、現役世代、シニア世代へトータルな学びの提供

宇都宮大学では、これから大学進学を目指す高校生、現役で活躍する社会人、時間に余裕が出たシニア世代など、様々な世代に応じた学びのプログラムを提供しています。

### 高大連携の推進・発展

◇グローバルサイエンスキャンパス(GSC) 事業、スーパーサイエンスハイスクール (SSH) などの**高大連携事業**を推進

・延べ参加者  
H28:1,074名 ⇒ H29:1,539名 ⇒ **H30:3,257名**

◇より早い段階から大学の理数科学教育に触れる機会を提供するため**中大連携事業**もH29から推進

・延べ参加者  
**H30:1,089名** (H29:1,138名)

### <グローバルサイエンスキャンパス(GSC)事業> (JST)

「君が未来を切り拓く〜宇大の科学人材育成プログラム〜」(H27〜H30) ➔ **H31〜R4再採択 (全国で3大学のみ)**

・基盤プラン:66名受講  
・才能育成プラン:32名受講



### ◇受講者の主な研究成果

- ①研究論文が研究誌 *Microbiology Resource Announcements* に掲載
- ②「第6回とちぎアントレプレナー・コンテスト」(下野新聞社主催)で優秀賞を受賞
- ③インドネシアへの研究試料採集と研修に参加。バリ島のウダナヤ大学のセミナー *Young Researchers Scientific Discussion* でプレゼンを実施
- ④国際科学誌 *Plant Biotechnology* に研究成果が掲載
- ⑤「日本古生物学学会2018年年会」に参加しポスター発表(筆頭での一般発表は大変まれ)

### 宇大未来塾【現役世代】

#### 宇大未来塾

前期:「とちぎ志士プログラム」

若手社会人対象  
第2期生:20名輩出

後期:「次世代経営マネジメントプログラム」

次世代の経営者等を対象  
第1期生:25名輩出



### UUカレッジ【現役世代やシニア世代】

#### UUカレッジ

社会人やシニア層をターゲットに学び直しの機会を提供 正課の科目からオーダーメイドの**カリキュラム**を作成  
H30第1期生募集  
20名募集・95名応募・54名受講



**1期生54人 8割60代超**



宇大UUカレッジ3ヵ月

**「学び直し」予想以上**

【栃木】まちづくりや地域課題の解決に向け連携・協力しようと、市は27日、宇都宮大と相互友好協力協定を締結した。市と同大はこれまで、同大教授らが市の審議会委員を務めたり、学生が各課と連携して地域の調査を行ったりするなど協力関係を築いてきた。地域の資源や大学の研究成果の相互利用を図ることなどを目的に協定を締結した。締結式は市役所で行われ、大川秀子市長と石田朋靖学長が協定書に署名。意見交換を行った。大川市長は「まだまだ市は未完成。さまざまな取り組みによる発展の可能性がある」。石田学長は「地域を元気にするための協力を研究をしていかなければならない」と話した。市は今後、学生との交流を通じて若者視点の意見を取り入れるなどしていく考えだという。

H31.1.20下野新聞

### 地域との連携を強固に

地域におけるまちづくりのプロを養成する「地域デザイン科学部」の設置や、地域の総合窓口となる「地域連携推進機構」の設置、さらには、新大学院「地域創生科学研究科」の設置などを契機として、これまで以上に地域との連携を強めることが重要となっています。

### 地域連携の充実・強化

#### 自治体との連携協定締結の躍進

栃木県内全25市町中  
H17年〜H29年 7市町  
H30年のみで +8市町  
R元年9月末 +5市町  
**計20市町**

第3期末までに  
全市町と締結



協定書に署名した石田学長(左)と大川市長

【栃木】まちづくりや地域課題の解決に向け連携・協力しようと、市は27日、宇都宮大と相互友好協力協定を締結した。市と同大はこれまで、同大教授らが市の審議会委員を務めたり、学生が各課と連携して地域の調査を行ったりするなど協力関係を築いてきた。地域の資源や大学の研究成果の相互利用を図ることなどを目的に協定を締結した。締結式は市役所で行われ、大川秀子市長と石田朋靖学長が協定書に署名。意見交換を行った。大川市長は「まだまだ市は未完成。さまざまな取り組みによる発展の可能性がある」。石田学長は「地域を元気にするための協力を研究をしていかなければならない」と話した。市は今後、学生との交流を通じて若者視点の意見を取り入れるなどしていく考えだという。

【栃木】まちづくりや地域課題の解決に向け連携・協力しようと、市は27日、宇都宮大と相互友好協力協定を締結した。市と同大はこれまで、同大教授らが市の審議会委員を務めたり、学生が各課と連携して地域の調査を行ったりするなど協力関係を築いてきた。地域の資源や大学の研究成果の相互利用を図ることなどを目的に協定を締結した。締結式は市役所で行われ、大川秀子市長と石田朋靖学長が協定書に署名。意見交換を行った。大川市長は「まだまだ市は未完成。さまざまな取り組みによる発展の可能性がある」。石田学長は「地域を元気にするための協力を研究をしていかなければならない」と話した。市は今後、学生との交流を通じて若者視点の意見を取り入れるなどしていく考えだという。

H31.3.28下野新聞

栃木市との連携協定締結

# 組織運営・ガバナンスに関する成果

## 多様な人材の確保と教育研究の活性化

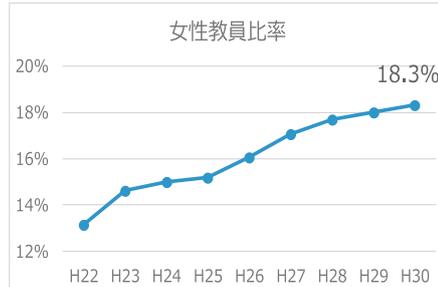
宇都宮大学では長年、男女共同参画を推進してきました。この取組によって女性教員が働きやすい環境を整備するための国からの補助金の獲得や、独自の女性教員採用制度などによって女性教員を積極的に採用しています。また、若手教員を確保するために、宇大版テニュアトラック制度を導入するなど、多様な人材の確保に努めています。さらに、頑張っている教員を後押しするため、業績の一部を処遇に反映させる仕組みを構築し、教育研究を活性化する取組を行っています。

### 女性教員への支援

- ◇女性研究者研究活動支援事業 (H25~H27:JST) の高い評価
- ◇女性教員採用特別制度の採用
- 学長戦略経費による経費支援

「ダイバーシティー研究環境実現  
イニシアティブ（先端型）」  
(H30~R5:JST) に採択

### 女性教員比率の漸増



### 処遇反映型(業績)評価の構築

新たな教員評価制度の構築  
(自己研鑽型評価) H30評価から導入

評価結果の一部を援用

質の高い  
教育の提供

高い研究成果  
外部資金獲得力

学長による処遇への反映

## 意思決定の迅速化

社会の流れや大学を取り巻く変化に柔軟かつスピーディーに対応するため、執行部で組織する「大学戦略企画本部」を設置し、この下に教育、研究、経営に関する課題に対応するための3つの戦略企画チームを設置しました。(H31.4)

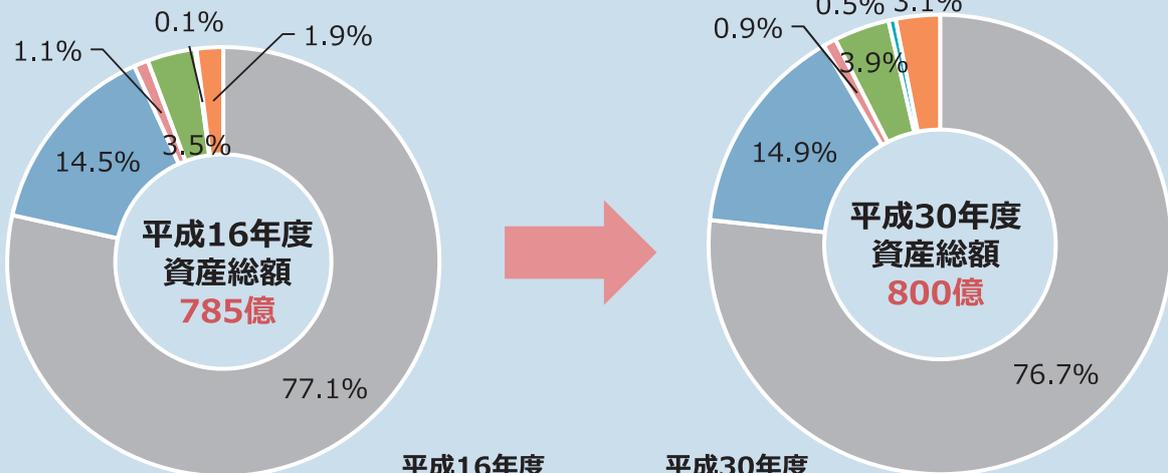
### 大学戦略企画本部・戦略企画チームの設置

#### 戦略企画チームの特徴

- ◇各チームをリードするのは複数名の理事
- ◇チームメンバーは教員と事務職員⇒教職協働
- ◇選出メンバーの中心は中堅の教職員  
⇒次世代のリーダーを担う若手人材の育成に寄与



## 資産の構成



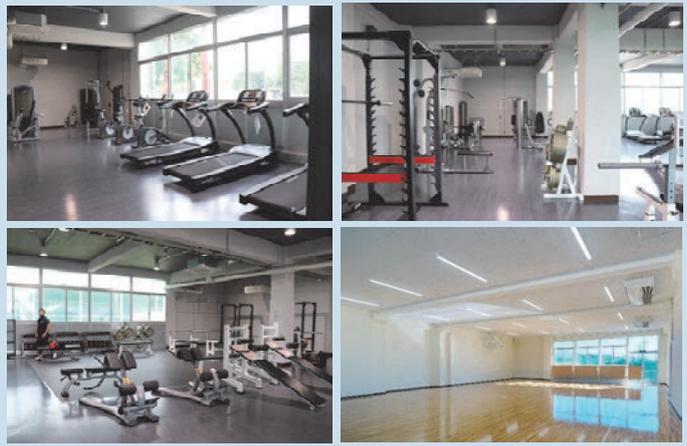
	平成16年度	平成30年度
土地	61,655 (77.1%)	61,372 (76.7%)
建物・構築物	11,604 (14.5%)	11,944 (14.9%)
工具器具備品	841 (1.1%)	728 (0.9%)
図書	2,823 (3.5%)	3,106 (3.9%)
その他の固定資産	84 (0.1%)	405 (0.5%)
流動資産	1,560 (1.9%)	2,460 (3.1%)

単位(百万円)

○武道場竣工 総工費：1.3億円



↑ 武道場外観

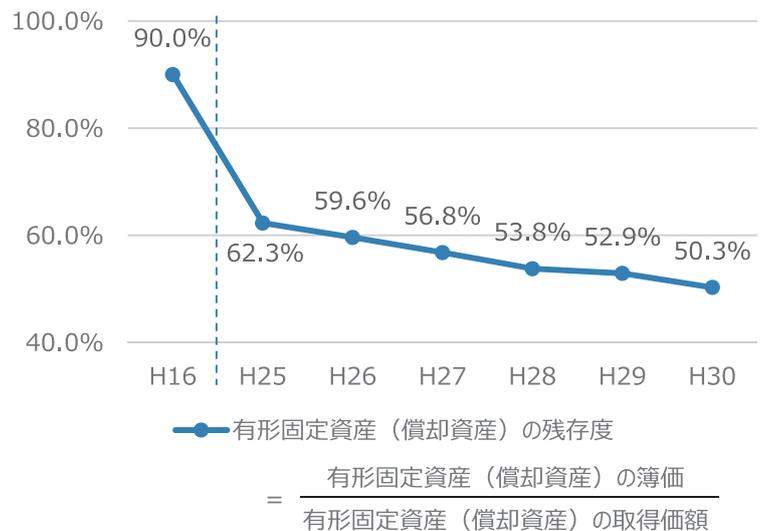


トレーニングルームと剣道場→  
(トレーニングマシンは3C基金で整備)

## ○資産の財務上の特徴、課題

平成30年度の資産を見ると、資産全体の8割近くを土地がシェアしており、建物・構築物と続きます。平成16年度（国立大学法人化の初年度）と比べても、構造はほとんど変化はありませんが、その他の固定資産や流動資産のシェアが増加し、多様な資産が増えていることがわかります。

また、課題としては右図からもわかるとおり、有形固定資産の老朽化が進んでいることがあげられます。教育研究に対するニーズを踏まえ、施設・設備の整備を進めるとともに、老朽化した資産の更新投資を行っていくことが重要です。



## ○施設、設備のマネジメント

本学の第3期中期計画では、施設・設備について、「キャンパスマスタープラン、設備マスタープランを戦略的に立案し、アクティブ・ラーニングや学生のコミュニケーション力を促進する学びの空間などの教育に関する施設設備を充実するための経費を確保・配分する」とこととしており、施設はキャンパスマスタープランに、設備は設備マスタープランに基づき、それぞれ着実に更新等を行うとともに、効率的・効果的な利用を促進することとしています。

### キャンパスマスタープラン

キャンパスマスタープランでは安全・安心な教育研究環境の基盤の確保として、学生や研究者等が安全・安心な環境において教育研究が出来るよう老朽施設の改善整備、老朽化している基幹設備（ライフライン）の計画的な更新を推進しており、これには最低でも**毎年度約4億円**の財源を必要としています。

### 設備マスタープラン

本学における設備の取得後の経過年数を見てみると、一般に設備の減価償却が6年程度とされている中で、取得から6年以上経過しているものは全体で62.4%にもぼる状況となっています。これを背景に、第3期中期計画期間中の整備計画として、**約9億円（年平均約3億円）**の財源を必要としています。



附属図書館陽東分館：建物の老朽化が著しい

計画的に「キャンパスマスタープラン」「設備マスタープラン」に掲げる施設設備を整備して老朽化を食い止めるには、その財源を安定的に確保することが必要となります。今後も経営努力を継続しながら、学内財源のみならず、民間からの寄附、長期借入金、地方公共団体との連携、行政庁からの補助金等、多様な財源での整備についてより積極的に検討してまいります。

## ○学長のリーダーシップによる戦略的な資源配分【学長戦略経費】

2018年度 (平成30年度) 予算額:1.9億円	教育に関する経費	新大学院「地域創生科学研究科」の開設	260万円
	研究に関する経費	地域イノベーション創出推進事業	200万円
		若手研究者研究支援経費	400万円
	社会貢献・地域連携に関する経費	グローバルリーダー育成関連事業	400万円
		宇大未来塾、UUカレッジ開講	100万円
組織運営・ガバナンスに関する経費	男女共同参画・女性研究者研究活動推進事業	100万円	
2019年度 (令和元年度) 予算額:2億円	教育に関する経費	大学教育推進機構関連事業	130万円
	研究に関する経費	地域イノベーション創出推進事業	300万円
		分野融合型研究支援事業	300万円
	社会貢献・地域連携に関する経費	グローバルリーダー育成関連事業	340万円
		宇大未来塾、UUカレッジ開講	100万円
組織運営・ガバナンスに関する経費	男女共同参画・女性研究者研究活動推進事業	90万円	

※上記金額はその事業の所要額のすべてではありません。また、金額には関連する事業の金額も含まれています。

### 分野融合型研究による地域イノベーションの創出（令和元年度新規:300万円）

これまでご紹介してきましたとおり、本学では様々な組織の新設、再編を行ってきました。これらの取組のベースとなっているのは、従来の枠組みを超えた“連携”、“融合”です。

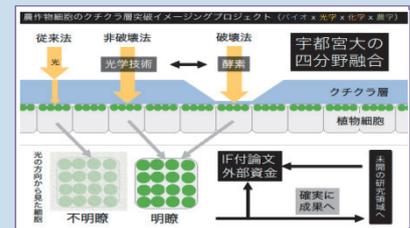
研究面においても、以前から連携・融合プロジェクトが数多く進められており、これを加速させたのが組織改革です。これらをさらに発展させるために、①世界的な最先端あるいは新たな研究分野の開拓・創生、②地域課題の解決や地域の活性化、③イノベーションの創出、に結びつくような研究に対して戦略的な資源配分を行っています。

### 令和元年度に支援を行っている分野融合型研究プロジェクト

#### ○農作物細胞のクチクラ層突破イメージングプロジェクト

融合部局 **バイオサイエンス教育研究センター×工学部×農学部**

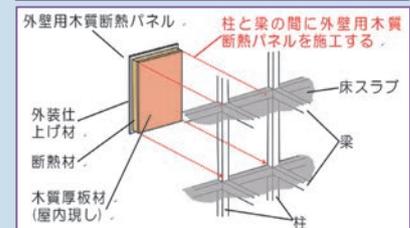
本プロジェクトでは、バイオ・光学・化学・農学の4分野の融合によって、クチクラ層が厚いために細胞観察が難しい農作物等を対象とした細胞イメージング基盤技術を開発し、農作物の細胞解析に新たな領域を拓きます。



#### ○栃木県産材を活用したビル用木材断熱パネルの開発と導入効果

融合部局 **地域デザイン科学部×工学部×農学部**

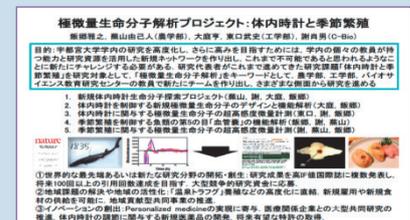
本プロジェクトでは、栃木県産の製材を原料とする木質系厚板材に断熱材と外壁仕上げ材を張った非木造建築物の外壁用木質断熱パネルを開発し、実用化するために必要な技術的基盤を整備します。



#### ○極微量生命分子解析プロジェクト：体内時計と季節繁殖

融合部局 **工学部×農学部×バイオサイエンス教育研究センター**

24時間型の現代社会において体内時計は重要です。本プロジェクトでは、「極微量生命分子解析」を鍵として新規の学内研究ネットワークを創出し、「体内時計と季節繁殖」に焦点を当て研究を進めます。



## ○財務情報の要約

### 貸借対照表 (BS)

単位：百万円

資産の部	H29年度	H30年度	増減	負債の部	H29年度	H30年度	増減
○固定資産	78,261	77,556	▲704	資産見返負債	6,048	5,889	▲158
土地	61,372	61,372	0	長期借入金	55	51	▲3
建物	11,674	11,154	▲519	寄附金債務	697	732	35
構築物	816	789	▲27	未払金	1,396	935	▲460
工具器具備品	875	728	▲146	その他	693	784	90
図書	3,097	3,106	8	<b>負債計</b>	<b>8,891</b>	<b>8,393</b>	<b>▲498</b>
美術品・収蔵品	100	100	0	<b>純資産の部</b>	<b>H29年度</b>	<b>H30年度</b>	<b>増減</b>
建設仮勘定	-	11	11	資本金	73,540	73,540	0
投資有価証券	165	160	▲5	資本剰余金	▲1,873	▲2,415	▲542
その他	158	133	▲25	○利益剰余金	443	498	55
○流動資産	2,741	2,460	▲280	前中期目標期間繰越積立金	186	180	▲6
現金・預金	2,307	2,261	▲45	目的積立金	126	256	130
未収入金	74	86	11	当期末処分利益	130	61	▲68
有価証券	350	104	▲245	<b>純資産計</b>	<b>72,110</b>	<b>71,624</b>	<b>▲486</b>
その他	8	8	▲0	<b>負債・純資産合計</b>	<b>81,002</b>	<b>80,017</b>	<b>▲984</b>
<b>資産計</b>	<b>81,002</b>	<b>80,017</b>	<b>▲984</b>				

貸借対照表は決算日（3月31日）における本学の全ての資産、負債及び純資産を記載することによりその財政状態を明らかにすることを目的としています。

この表からは平成30年度末時点において、長期借入金を含む約83億円の負債と国からの出資等による約716億円の純資産から形成された土地、建物など約800億円の資産を用いて教育研究等の業務活動を行っている構造が読み取れます。

### 損益計算書 (PL)

単位：百万円

経常費用	H29年度	H30年度	増減	経常収益	H29年度	H30年度	増減
教育経費	1,212	1,173	▲39	運営費交付金収益	5,515	5,500	▲14
研究経費	748	710	▲38	学生納付金収益	2,808	2,846	38
教育研究支援経費	265	279	14	受託研究収益等	535	526	▲9
受託研究費等	533	522	▲11	寄附金収益	193	174	▲19
人件費	6,753	6,765	12	施設費収益	29	21	▲8
一般管理費	420	437	17	補助金等収益	262	147	▲114
その他の費用	9	23	14	資産見返戻入	402	426	23
<b>経常費用合計</b>	<b>9,942</b>	<b>9,912</b>	<b>▲30</b>	財務収益・雑益等	299	334	34
臨時損失	8	8	▲0	<b>経常収益合計</b>	<b>10,046</b>	<b>9,976</b>	<b>▲70</b>
<b>計</b>	<b>9,951</b>	<b>9,920</b>	<b>▲30</b>	前中期目標期間繰越積立金取崩額	34	6	▲28
<b>当期総利益</b>	<b>130</b>	<b>61</b>	<b>▲68</b>	<b>計</b>	<b>10,081</b>	<b>9,982</b>	<b>▲99</b>

損益計算書は事業年度内に本学が実施した事業等により発生したすべての費用と収益を記載することにより、その運営状況を明らかにしています。費用の側には教育、研究等の目的別に、収益の側には国からの交付金や学生納付金による収益等を財源別に計上しています。

## ○財務情報の要約

### キャッシュ・フロー計算書 (CF)

単位:百万円

I. 業務活動による キャッシュ・フロー	H29年度	H30年度	増減	II. 投資活動による キャッシュ・フロー	H29年度	H30年度	増減
原材料, 商品又は サービスの支出	▲2,019	▲1,865	154	有価証券の取得による支出	▲400	▲100	300
人件費支出	▲7,040	▲6,833	207	有価証券の償還による収入	292	351	59
その他の業務支出	▲370	▲382	▲12	固定資産の取得による支出	▲1,103	▲920	183
運営費交付金収入	5,577	5,532	▲44	固定資産の売却による収入	-	0	0
授業料収入	2,332	2,317	▲14	定期預金預入れによる支出	▲2,400	▲2,357	43
入学金収入	382	370	▲11	定期預金払戻による収入	2,402	2,200	▲202
検定料収入	68	65	▲2	施設費による収入	793	158	▲634
受託研究収入等	571	591	20	施設費の精算による 返還金の支出	-	-	-
補助金等収入	628	169	▲458	大学改革支援・学位授与 機構への納付による支出	-	-	-
補助金等の精算に よる返還金の支出	▲1	0	1	利息の受取額	0	0	0
寄附金収入	221	188	▲33	<b>投資活動による キャッシュ・フロー</b>	<b>▲415</b>	<b>▲667</b>	<b>▲250</b>
預り金収入	159	111	▲47	<b>III. 財務活動による キャッシュ・フロー</b>	<b>H29年度</b>	<b>H30年度</b>	<b>増減</b>
預り金支出	▲151	▲117	34	長期借入金返済による支出	▲3	▲3	-
その他収入	295	319	24	その他支出	▲114	▲2	111
国庫納付金の支払額	-	-	-	<b>財務活動による キャッシュ・フロー</b>	<b>▲118</b>	<b>▲6</b>	<b>112</b>
<b>業務活動による キャッシュ・フロー</b>	<b>654</b>	<b>470</b>	<b>▲183</b>	<b>IV. 資金の増加額 (又は減少額)</b>	<b>119</b>	<b>▲202</b>	<b>▲322</b>
<b>V. 資金期首残高</b>				<b>V. 資金期首残高</b>	<b>2,078</b>	<b>2,197</b>	<b>119</b>
<b>VI. 資金期末残高</b>				<b>VI. 資金期末残高</b>	<b>2,197</b>	<b>1,994</b>	<b>▲202</b>

キャッシュ・フロー計算書は、資金の調達や運用状況を明らかにするため、費用及び収益には計上されない借入金の増減や現金での収入状況等も含めて、一事業年度の資金の流れを「業務活動」・「投資活動」・「財務活動」の3つの区分に分けて表示し、報告するものです。

### その他の財務諸表

単位:百万円

財務諸表	科目	平成29年度	平成30年度	増減
<b>業務実施コスト計算書</b>	教育・研究の業務運営に要した費用(コスト)のうち、国民の税金で賄われている金額を表します。			
	<b>業務実施コスト</b>	<b>6,586</b>	<b>6,598</b>	<b>12</b>
<b>決算報告書</b>	年度計画における予算額と実際に執行した決算額を対比することで、予算の見積りとその後の事業の推移を明らかにするものです。			
	<b>収入</b>	<b>10,915</b>	<b>9,764</b>	<b>▲1,151</b>
	<b>支出</b>	<b>10,733</b>	<b>9,620</b>	<b>▲1,113</b>
	<b>収入-支出</b>	<b>182</b>	<b>144</b>	<b>▲38</b>

# 宇都宮大学概要

## 理念・基本姿勢・スピリット

- 理念  
『人類の福祉の向上と世界の平和に貢献する』
- 基本姿勢  
『“地域に学び、地域に返す、大学と地域の支え合い”という姿勢を大切に、「地域の知の拠点」として変革をリードする』
- スピリット  
『～明るい未来を開拓するために～主体的に挑戦し（Challenge）時代の変化に対応して自らを変え（Change）  
広く社会に貢献する（Contribution） 宇大スピリット＝3C精神』

## 基礎データ

- 入学定員（単位：人）

学部	入学定員	研究科	課程	入学定員
地域デザイン科学部	140	地域創生科学研究科	修士課程	335
国際学部	90	国際学研究科	博士後期課程	3
教育学部	170	教育学研究科	専門職学位課程	18
工学部	315	工学研究科	博士後期課程	30
農学部	195			
合計	910	合計		386

- 在籍者数【R1.5.1現在（単位：人）以下同じ ※留学生（正規生）数は在籍者数の内数】

学部・研究科	課程	在籍者数（うち女性）	女性比率	留学生数（うち女性）
学部		4,071（1,629）	40.0%	59（28）
研究科	修士課程 博士前期課程	742（159）	21.4%	99（53）
	専門職学位課程	33（16）	48.5%	
	博士後期課程	92（20）	21.7%	
合計		4,938（1,824）	36.9%	158（81）

- 進路状況【H30年度 学部卒】

区分・員数				合計	
進学（大学院・その他）				317	
就職	製造	114	情報通信	60	608
	教員	101	建設	34	
	公務員	116	金融・保険	20	
	サービス	70	運輸・郵便	14	
	卸・小売	45	その他	34	
その他				44	
合計				969	

- 教職員数

区分	員数
役員（非常勤監事2を含む）	7
大学教員	342
附属学校教諭	84
事務系職員	208
合計	641

- 就職率（学部卒）

H31.3卒	H30.3卒	H29.3卒
98.5%	99.0%	98.2%



国立大学法人 宇都宮大学【学長：石田朋靖（第20代・21代）】  
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350【JR宇都宮駅～南東2.2km】  
宇都宮大学設置【1949年(昭和24年)5月31日 国立学校設置法】  
国立大学法人宇都宮大学設置【2004年(平成16年)4月1日 国立大学法人法】



宇都宮大学は令和元年  
(2019年) 創立70周年  
を迎えます

－ 地域に学び、地域に返す、大学と地域の支え合い －

<宇都宮大学のモットー>

